



アルゼンチンのトウモロコシをめぐる 最近の情勢について

海外現地調査報告会資料

2011年9月9日

独立行政法人農畜産業振興機構

調査情報部 国際調査グループ

石井 清栄

本日の内容

- 最近の情勢について
 - －近年の生産は好調
 - －作付面積は拡大傾向
- 今後の生産見通しについて
 - －生産は拡大の見込み
- 対日輸出について
 - －米国産との価格差の縮小
 - －品質に対する評価の改善
- 生産の潜在能力の高さから、引き続きアルゼンチンを含めた南米産に注目

はじめに

世界全体で見た場合のアルゼンチンおよび日本のトウモロコシの位置付け（2010/11年度）

（単位：千トン）

国名/地域名	生産量	国名/地域名	輸出量	国名/地域名	輸入量
米 国	316,165	米 国	48,500	日 本	16,100
中 国	168,000	アルゼンチン	14,000	メキシコ	9,000
EU (27カ国)	55,467	ブラジル	11,000	韓 国	8,000
ブラジル	55,000	ウクライナ	6,000	EU (27カ国)	6,500
アルゼンチン	22,000	インド	2,400	エジプト	5,400
その他	198,715	その他	10,975	その他	47,875
合 計	815,347	合 計	92,875	合 計	92,875

資料：米国農務省（USDA）

- トウモロコシの国際需給は、米国のエタノール需要の増加などによる同国の在庫率低下などからひっ迫傾向。
- トウモロコシの入手先の多様化の必要性。

最近の情勢について

トウモロコシ州別収穫面積

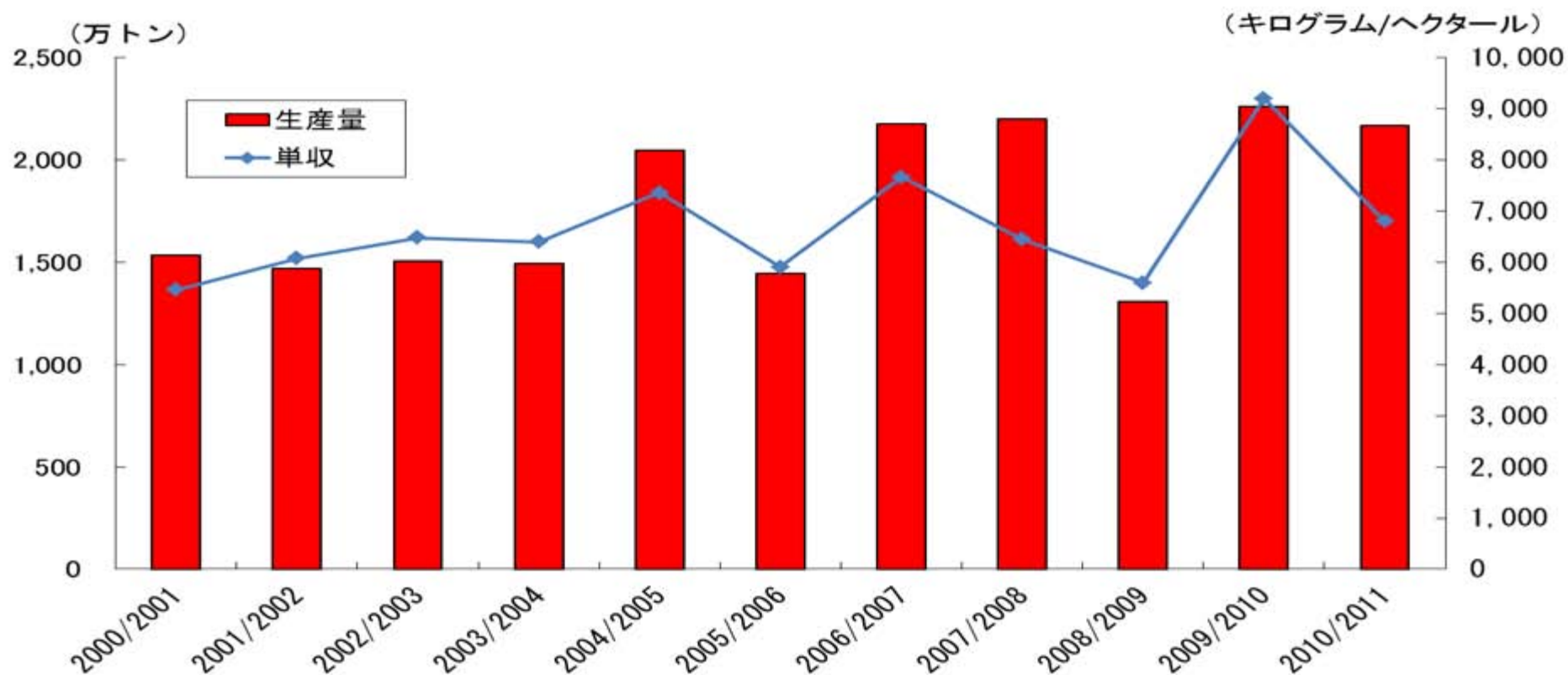


(単位:ヘクタール、%)

州名		2010/11年度①	面積割合	2009/10年度②	増減率(①/②)
パ ン パ 地 域	ブエノスアイレス州	1,085,180	30.8	868,370	25.0
	コルドバ州	961,500	27.3	842,500	14.1
	サンタフェ州	472,570	13.4	398,420	18.6
	エントレリオス州	175,800	5.0	146,800	19.7
	ラパンパ州	122,200	3.5	104,900	11.6
	その他の州	704,520	20.0	450,020	56.5
合計		3,521,770	100.0	2,811,010	25.3

資料：アルゼンチン農牧漁業省 (MINAGRI)

トウモロコシの単収および生産量



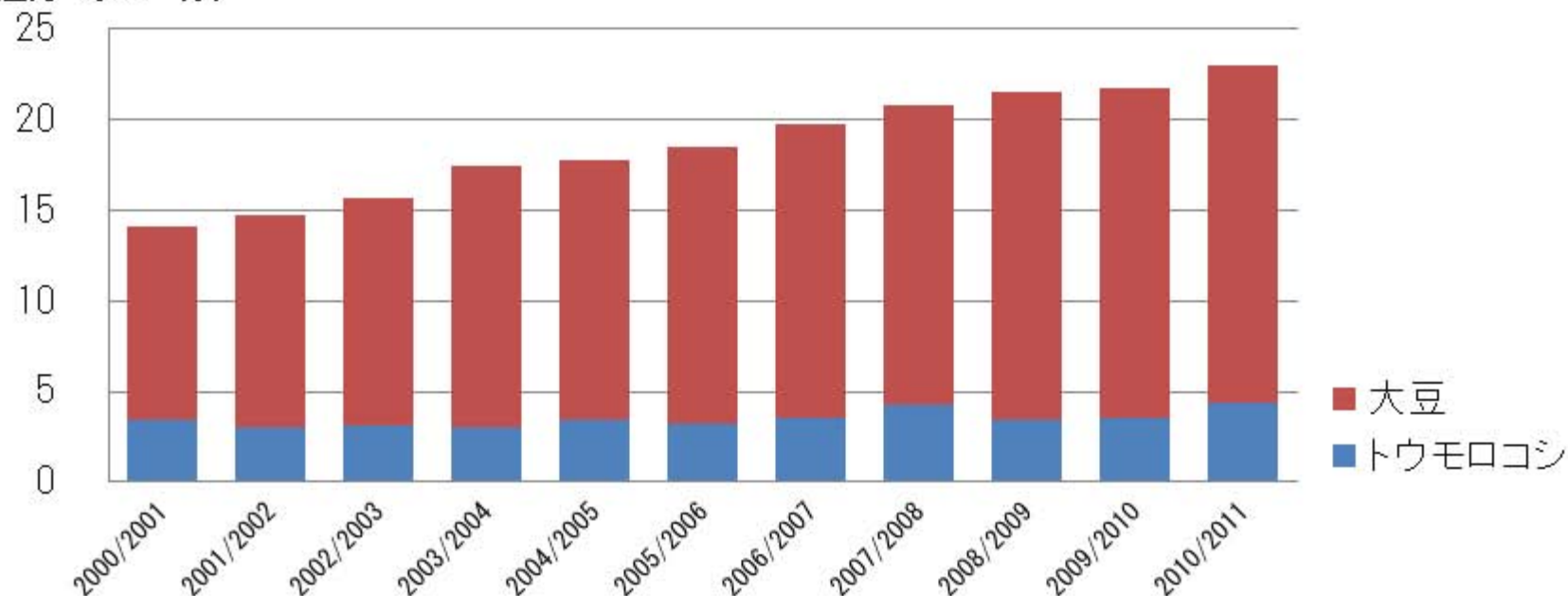
資料: MINAGRI

- ラ・ニーニャ現象による降雨不足から、2010/11年度の生産量は、前年度に比べ4.3%減の約2170万トン。
- 主要生産州のコルドバ州の単収は、前年度に比べ26.1%減の1ヘクタール当たり約6800キログラム。

alic

作付面積の推移

(百万ヘクタール)



資料：MINAGRI

アルゼンチンのクロープカレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トウモロコシ			収穫						は種			
大豆	は種									は種		

資料:アルゼンチン農牧漁業食糧庁(SAGPyA)「Principales cultivos de la Republica Argentina」
注:アルゼンチンのトウモロコシの作物年度は3月から翌2月まで、大豆は10月から翌9月まで以下同じ。

- 2010/11年度の作付面積は、2000/01年度に比べ62.6%増の約2303万ヘクタール。

トウモロコシ生産の特徴

- トウモロコシ生産の約70%が不耕起栽培。
- 生産されている品種はフリント系ハイブリッド種が多い（米国産はデント種）。

フリント種



- ・ 粒が堅い、色が鮮やか
- ・ でん粉質を多く含む

デント種とのハイブリッド種



- ・ 単収が向上

トウモロコシ生産現場（6月訪問）

- ブエノスアイレス州南西部（ゴルシ市）の生産農家
 - ・ 農地面積は、約600ヘクタール。
 - ・ 2009/10年度の単収は、1ヘクタール当たり約1万3000キログラム。2010/11年度は同約8000キログラム。



同地域では、収穫は既に終盤



フリント系ハイブリッド種を栽培

パンパ地域の農畜産物生産など



2008～2009年の干ばつ

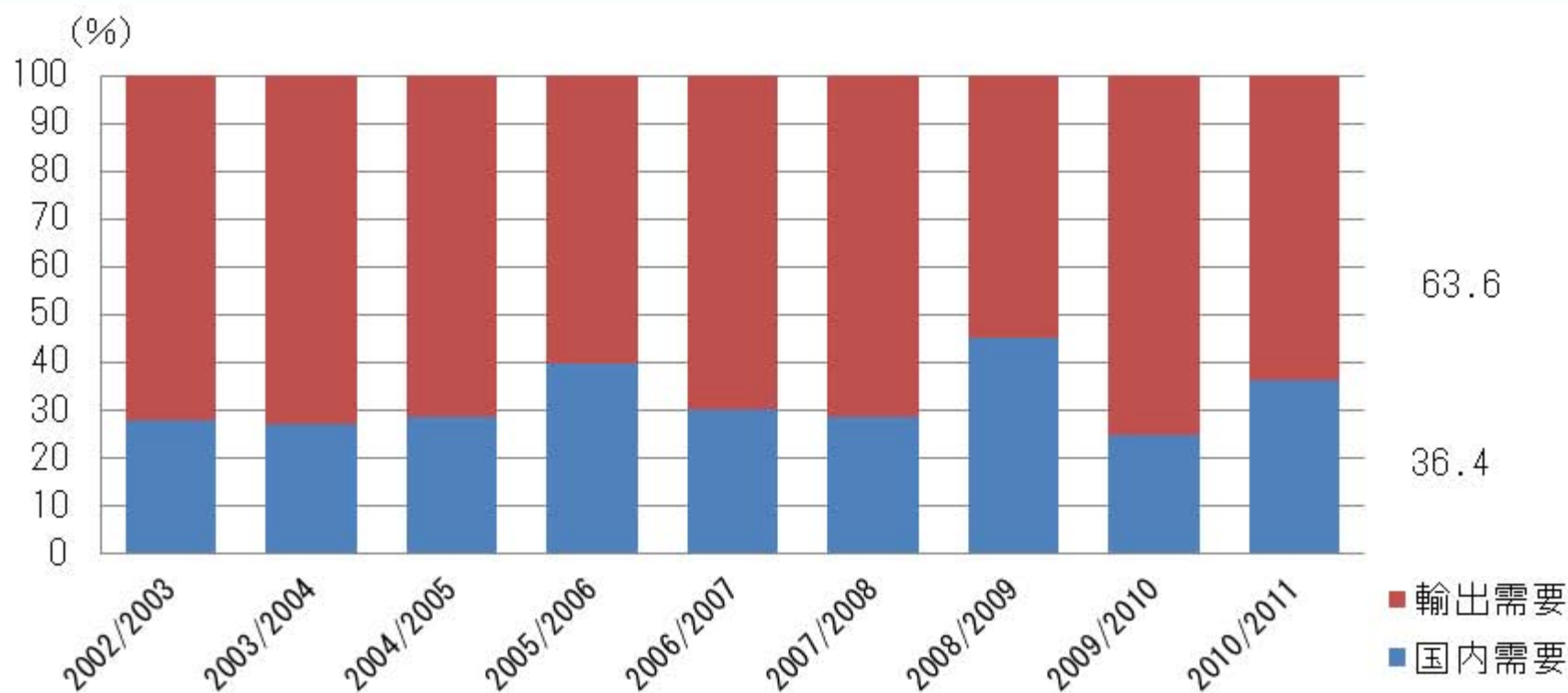


ブエノスアイレス

バイアブランカ



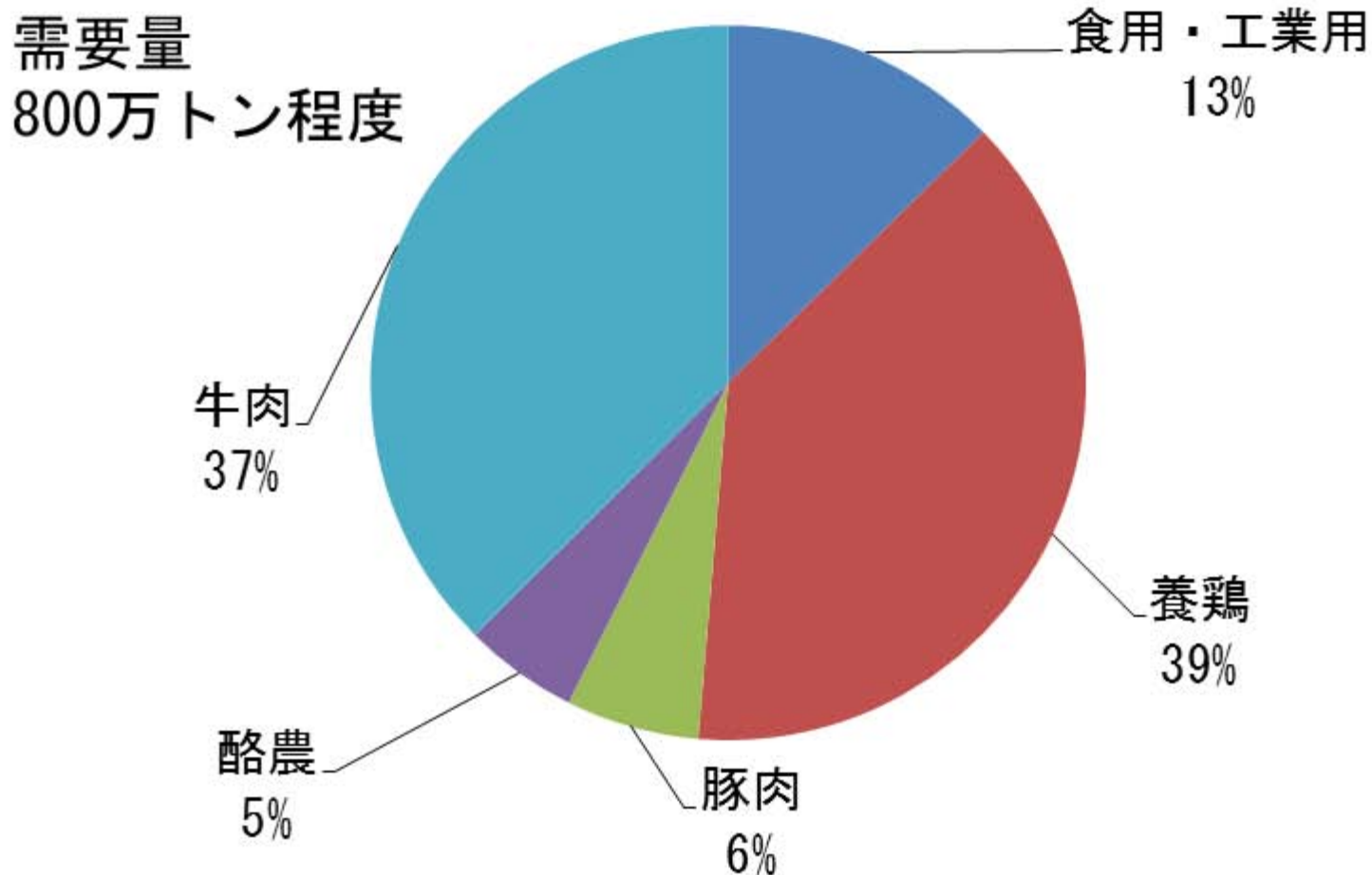
国内需要・輸出の推移



資料：USDA

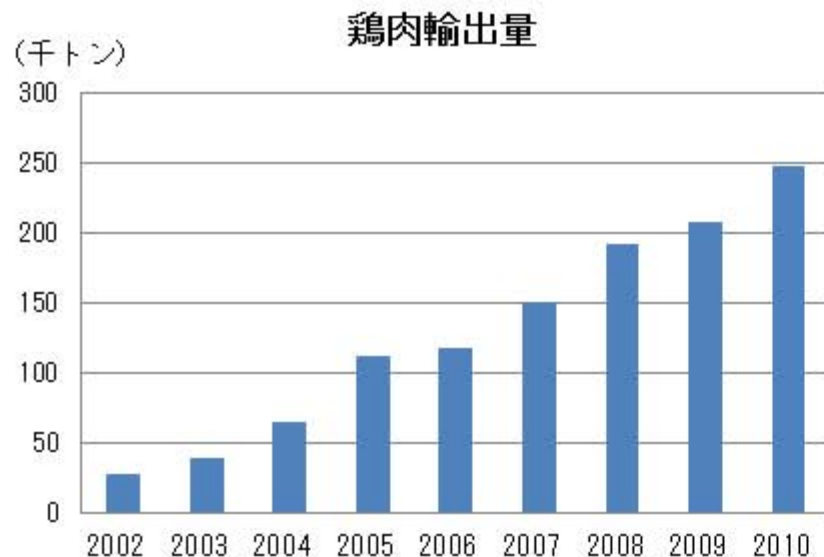
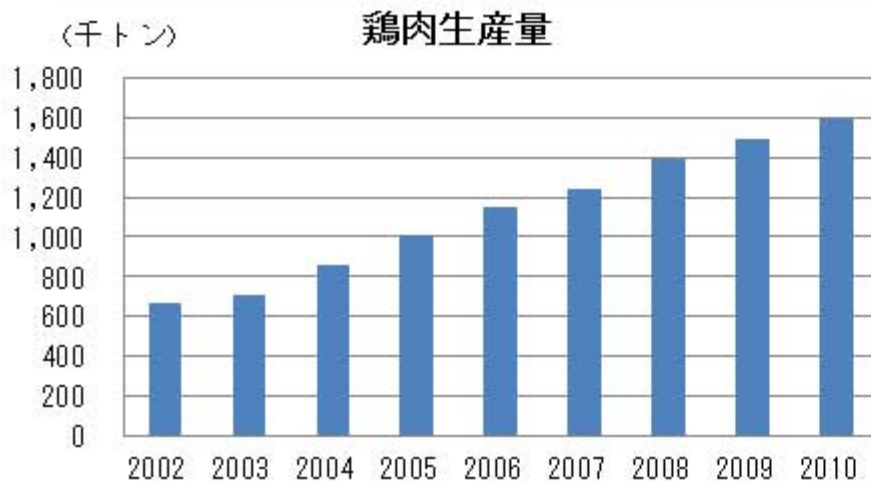
- 2005/06年度以降、鶏肉産業やフィードロット産業向けなどの国内飼料用向け需要が増加。
- 最近では、国内向けが30%以上になることもある。

国内需要の内訳（2010/11年度推計）



資料：MINAGRIほか

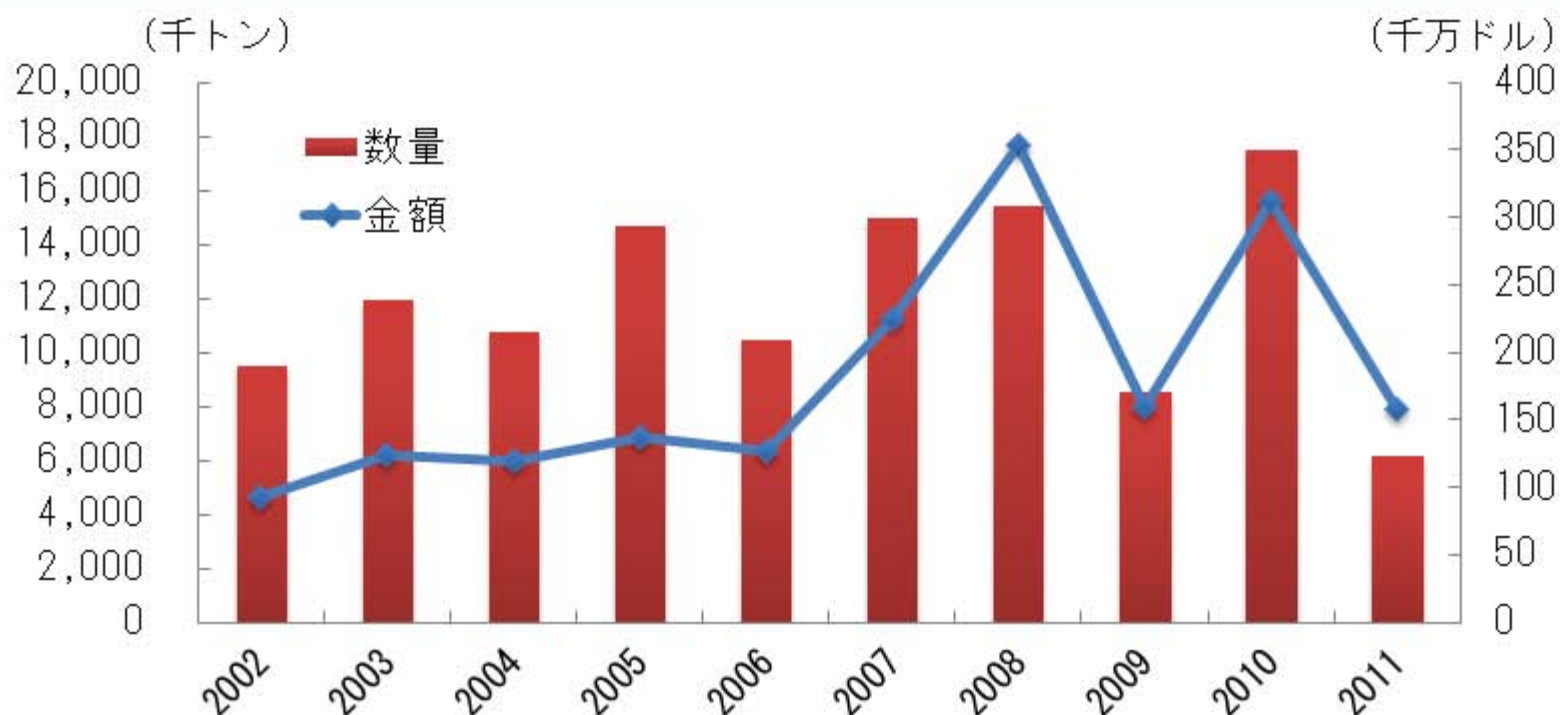
鶏肉産業の発展



資料：MINAGRI

- 国内消費者の嗜好の変化や牛肉価格高騰による代替需要から国内消費が増加。
- 輸出も堅調。
(要因)
 - 1 2002年の変動相場制の導入。
 - 2 鳥インフルエンザの発生なし。
 - 3 ベネズエラ、中国などからの旺盛な需要。
 - 4 業界主導による「鶏肉産業成長計画」の実施。

輸出の推移



資料：INDEC（国家統計局）に基づく現地農業コンサルタント会社の集計、アルゼンチン
国家動植物衛生機構（SENASA）

注：2011年は1～5月まで

- 2010年の輸出は、生産の大幅な増加などから、数量で前年比124.9%増の約1775万6000トン。金額で同132.8%増の約30億900万ドル。

トウモロコシの国別輸出

(単位：千トン、百万ドル)

順位	2009年			2010年		
	国名	数量	金額	国名	数量	金額
1	コロンビア	996	163	イラン	2,415	401
2	イラン	936	152	コロンビア	2,174	372
3	アルジェリア	877	144	アルジェリア	1,928	332
4	エジプト	717	116	マレーシア	1,485	250
5	マレーシア	707	114	エジプト	1,207	214
6	ペルー	622	102	ペルー	1,067	182
7	チリ	460	74	日本	880	146
	その他	2,580	427	その他	6,600	1,112
合計		7,895	1,292		17,756	3,009

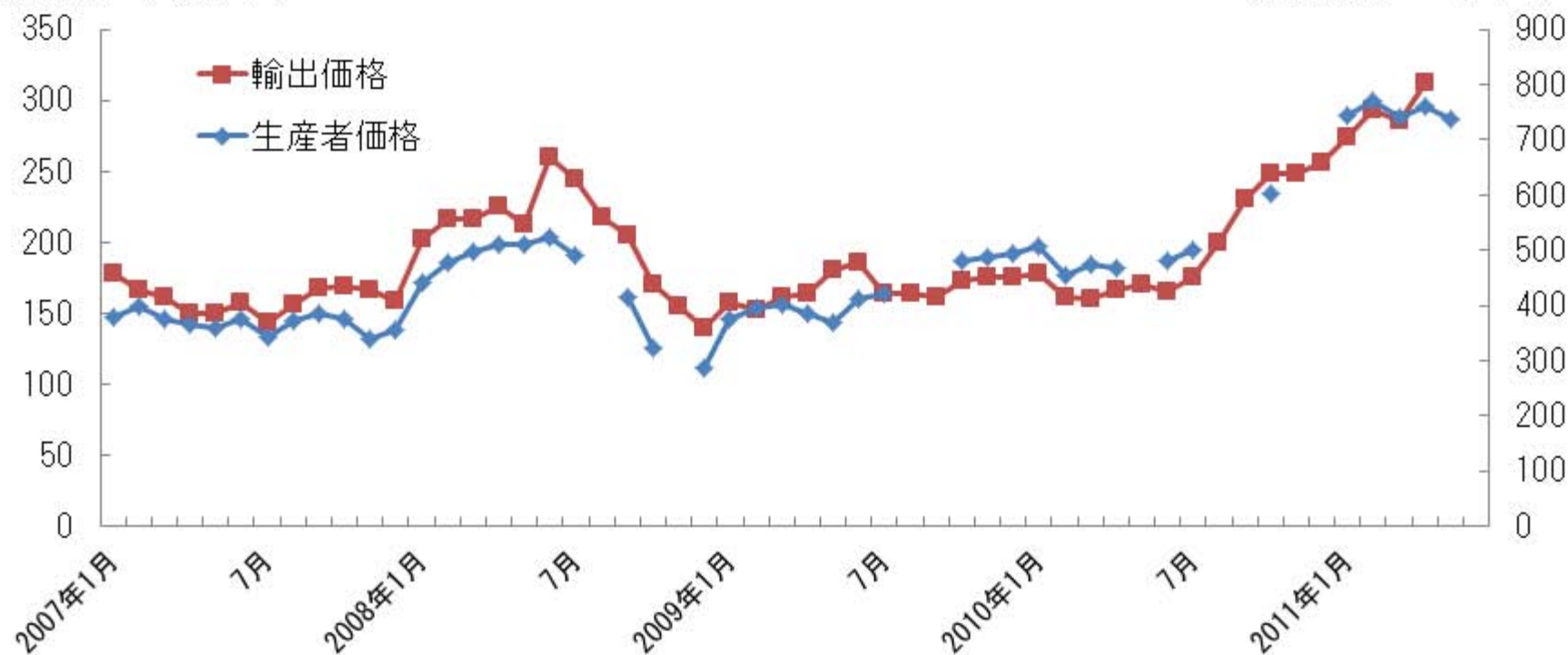
資料：アルゼンチン国家動植物衛生機構（SENASA）

- 主要輸出先は、イラン、コロンビア、アルジェリア。
- 中国向けについては、現在貿易協定締結に向けて協議中。
アルゼンチン側は2012年からの輸出開始を期待。

輸出・生産者価格の推移

(輸出価格：ドル/トン)

(生産者価格：ペソ/トン)



資料：MINAGRIなどに基づく現地農業コンサルタント会社の集計

- シカゴ市場のトウモロコシ国際価格の影響を受けやすい。
- 2011年4月の輸出価格は、1トン当たり313ドル。生産者価格は同762ペソと過去最高。

今後の生産・輸出見通しについて

単収

(単位：キログラム/ヘクタール)

国名	2010/11年度	2011/12年度
アルゼンチン	6,900	7,600
ブラジル	4,100	4,200
米国	10,000	10,000

生産量および輸出量

アルゼンチン

(単位：万トン)

国名	2010/11年度	2011/12年度	2015/16年度
生産量	2,200	2,600	3,500
輸出量	1,400	1,700	2,200

ブラジル

(単位：万トン)

国名	2010/11年度	2011/12年度	2020/21年度
生産量	5,500	5,500	6,650
輸出量	1,100	800	1,430

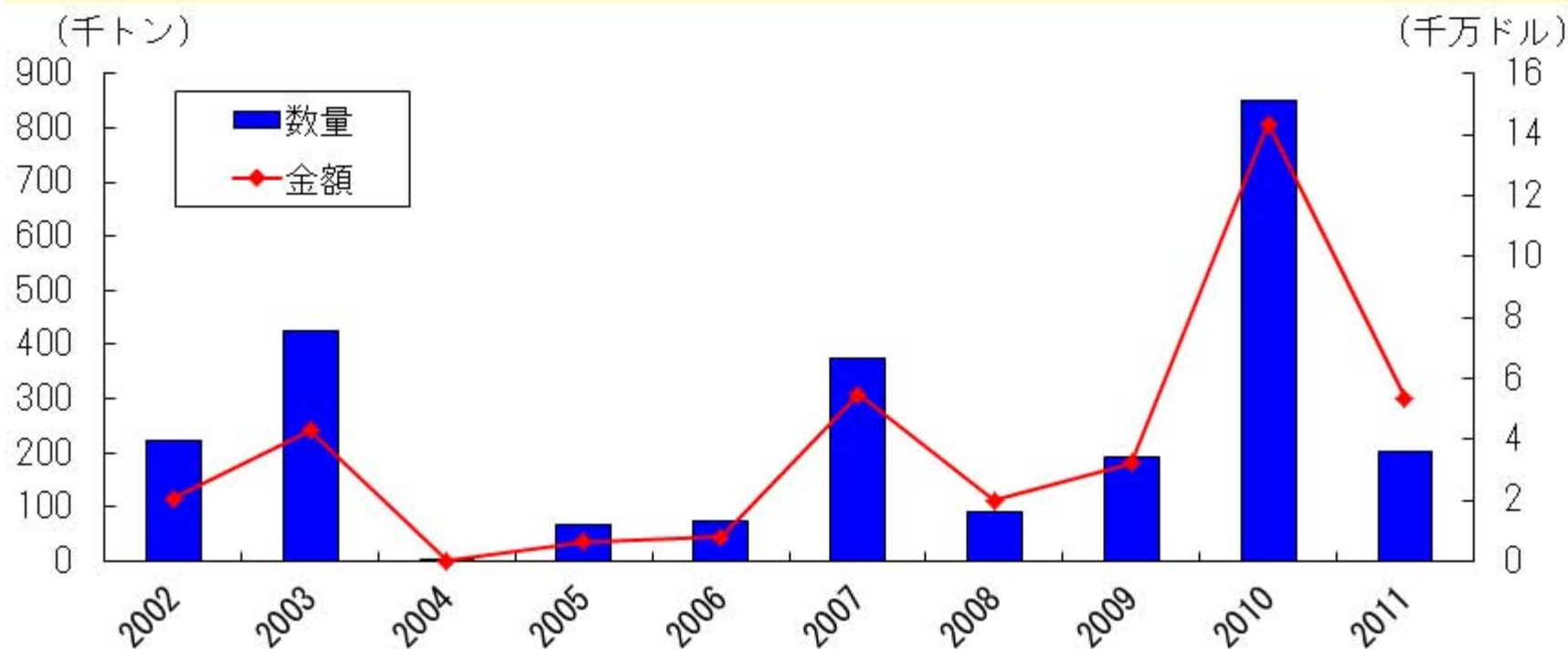
米国

(単位：万トン)

国名	2010/11年度	2011/12年度	2015/16年度	2020/21年度
生産量	31,600	34,300	36,000	38,800
輸出量	4,900	4,600	5,300	6,000

資料：USDA(ほか)

対日輸出について



資料：INDEC（国家統計局）に基づく現地農業コンサルタント会社の集計、アルゼンチン国家動植物衛生機構（SENASA）

注：2011年は1月～5月まで

- 2010年の対日輸出は、米国産トウモロコシの品質低下により、数量で前年比358.3%の約88万トン。金額で同351.7%増の約1億4500万ドルと過去10年間で最高。

対日輸出に係る問題と最近の情勢変化

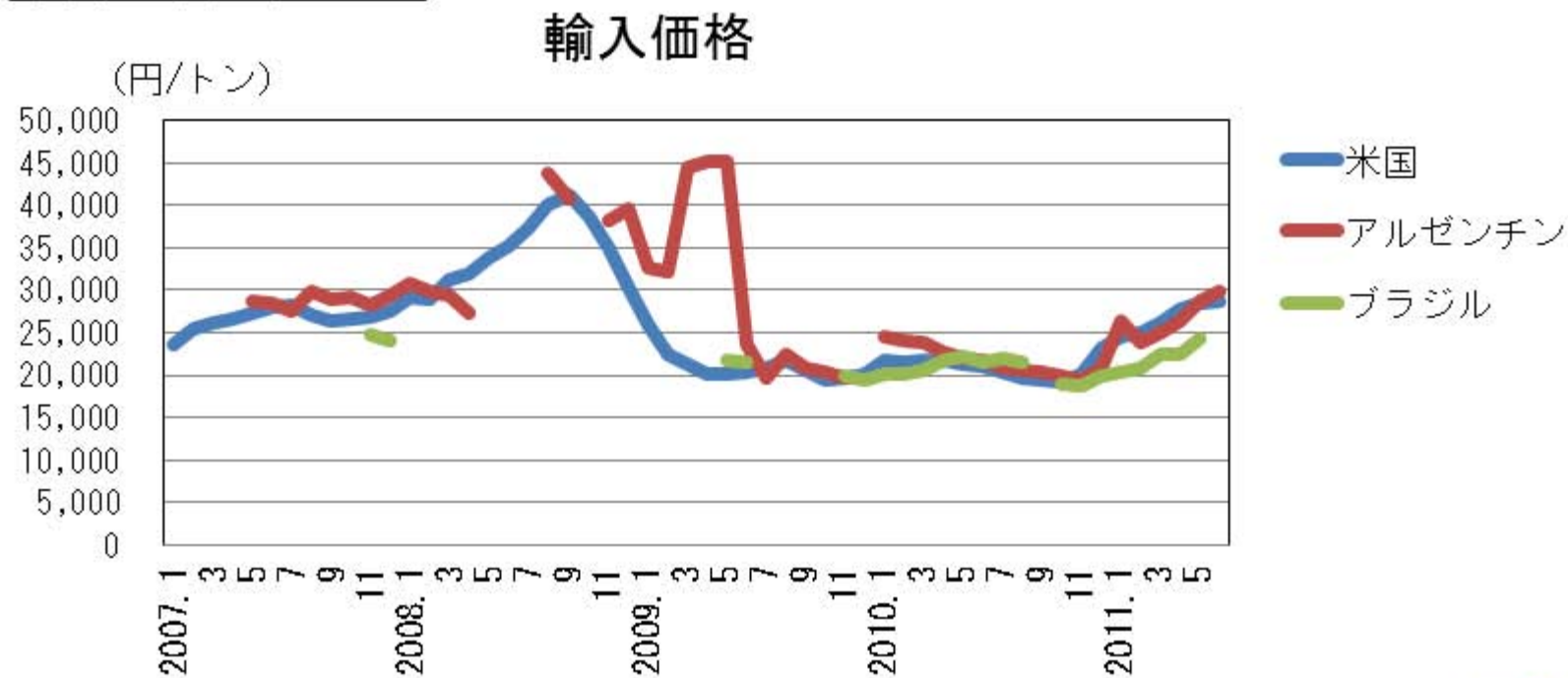
(1) コストの問題 (アルゼンチン産は輸入価格が高いのではないか)

⇒

2011年上半期の輸入価格低下

アルゼンチン：1トン当たり26,653円

米国：同26,766円



資料：財務省

(2) 輸出管理政策の問題

- ① 輸出登録制度
- ② 輸出課徴金制度

⇒

2009/10年度および10/11年度の生産は好調。国内需要は確保されることから、輸出許可が下りやすい状況。

(3) 飼料利用上の問題

- ① 米国産に比べ、品種の違い等により圧ペン化した際、均一化しない。
- ② においによる家畜の嗜好性が弱い。

⇒

評価の改善

- ① 米国産に比べ、品種の違い等によりカロチンが多く含まれているため、鶏卵用としては黄身の色が濃く出る。
- ② たん白成分濃度が上回ってきている。
- ③ 配合飼料生産時に粉じんが少ない。

まとめ

- 1 世界のトウモロコシ需給は、今後もひっ迫傾向で推移する見込み。
また、中国の輸入動向を注視することが必要。
- 2 アルゼンチンでは、パンパ地域を中心に大豆生産が拡大しつつも、
トウモロコシは一定の生産を確保。
コストや輸出管理制度などの問題はあるものの、トウモロコシ
生産の潜在能力の高さに注目することが必要。
- 3 世界最大のトウモロコシ輸入国である日本としても、入手先の多
様化等の観点から、コストや品質面の改善が見られるアルゼンチン
産トウモロコシの生産動向等を注視することが必要。
- 4 ブラジルは、米国産に近い品種を用いており、今後の生産拡大が
見込まれることから、注視することが必要。

ご清聴ありがとうございました。

